

令和 8 年 8 月 1 7 日

西部農林水産振興センター農業振興部

標 題	今後の産地化に向けて！ 期待の水稻新品種現地研修会を開催
-----	------------------------------

(ダイジェスト)

県内で本格的な導入・普及を目指す水稻新品種「つぶきらり」の現地研修会を 7 月 31 日に浜田市金城町において開催しました。当日は、参加した生産者 27 名や関係機関に対し、本品種の特性や栽培上の留意点に関する座学と、実証ほにおける現地研修を行いました。

近年、県内の米づくりにおいては、気候変動による高温下でも、安定した収量と高い品質を確保することが大きな課題となっています。当部では、その解決策として期待され、コシヒカリより高い食味評価と優れた高温登熟性を持つ水稻新品種「つぶきらり」の本格導入・普及に向け、実証ほを用いて本研修会を開催しました。

はじめに JA の会議室において座学研修を実施しました。農業技術センターの専門農業普及員から、本品種が「大粒で多収」であり、高温下でも白未熟粒の発生が少なく一等米比率を高く維持できる強みについて試験データをもとに解説し、栽培上の留意点・遵守事項も説明されました。続いて当部の農業普及員から、浜田市金城町で行われている現地実証ほの栽培概要や生育経過等の説明を行いました。

その後、実証ほへ移動し、実際に栽培されている「つぶきらり」の生育状況を参加者全員で観察し対照品種であるコシヒカリと比較しました。

生産者から「コシヒカリよりも倒伏しにくそう」、「実際にいつから作付けができるのか」といった具体的かつ熱心な質問が相次ぎました。またアンケート調査では、新品種が導入されれば「作付けしたい」が 53%、「作付けを検討したい」が 33%となり、全体の 8 割以上が前向きな意向を示すなど、本品種にかかる期待と関心の高さがうかがえました。

当部では、管内の米づくりの生産性向上に向け、この「つぶきらり」が新たな強みとなるよう、今後も関係機関との連携を密にしながら、技術指導や産地化に向けた情報提供などのサポート体制をさらに強化していきます。

